
東方我銀狐

奈々香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方我銀狐

【Nコード】

N2383Y

【作者名】

奈々香

【あらすじ】

周りにいじめられ、親にも「いない」といわれた少女。
そんな少女は自殺した。

その自殺で少女の目に映るものは一変する。

(1) 自殺〃転生〃意味不明状況に(前書き)

これはフィクション！

実際にあるわけじゃないよ！

バトルありだよ！

グロいのだめな人↓撤退どうぞ

ハーレムだめな人↓撤退どうぞ

okな人↓よんでね！お気に入り登録もヨロシク！！

(1) 自殺「転生」意味不明状況に

私は綺堂神那。
きどうしんな

現在12歳である。

そして自殺の真っ最中である。。。

*

*

*

私は、不細工で、運動もできなくて、頭も悪いし、太っていた。

そんな事で学校のものには6年間いじめられていた。

わたしが、一日の中で一番幸せだったのは家にいるとき。

本を読んでいるときは私が主人公になって、世界を旅できるから。

そんな私があるとときハマったのが「東方プロジェクト」だった

それからは東方をやるときが一番の幸せ。

いじめられていても耐えられた。けど、

「あんたみたいな子はいらない。うちから出て行きなさい。不名誉よ!」

そう、親に言われたときは悲しかった。そして思った。

————ああ、死んでしまおう、と。

ここで冒頭に戻る。

* * *

私はその銀色に鈍く光る刃物を

自分の喉へ持つていつて横に引いた。

「~~~~~~~~!!!!!!」

痛くて床の上で暴れまわる。

（痛い・・・っ！痛・・・い・・・だれか・・・助けて・・・！）

声は届かず、痛みにもだえながら私の意識は落ちていった・・・。

* * *

「で、何でこんな事になったんだろう？」

死んだのだ、私は。確かに死んだのだ。

なのに、生きている。どうして、しか出てこない。

「しかも、自室にいたのに、今いるところは洞窟の前・・・っ。

L

特に体に違和感は無いな・・・。

でも、背は縮んだかもしれない。

大体どれくらいだろう・・・12歳で150cmだった。

感覚でいくと、大体30cmは縮んだ。

-
-
-
-
-

む？

150130112011現在120cm。

[illegible]

泣いた。幼女の部に入ってしまった。

改め、自分の姿をしてみる。泉で。

銀色の腰まで伸びている髪、紫色の目、ちっちゃい顔に、赤地に才
レンジの花模様の着物を着ていて、素足。

そして、銀色の、狐のようなふわふわした耳と尻ぽ。

――狐の耳としっぽ!!???

[illegible]

？さらに縄文時代だった

？そして不老でした。

？と？はさっき調べた。

特に？とかショックだったね。

で、思ったんだけど、今アタシはキツネ妖怪だよな。

キツネといえはやっぱ化けるとか幻覚とかだよな。

という事で、人化できるかなってね。

という事で、100年くらいは人化の修行がんばるねっ

（１）自殺「転生」意味不明状況に（後書き）

なんか少なくてすみません。

それに、戦闘もつまく書けないとおもうんですよ！。

でも！次回もよろしくおねがいしますよ！？

(2) とりあえずいつてみるか？

あれから1000年くらいたった。

人化成功したよ？

そのときの事はなそつか？

~~~~~回想~~~~~

「おお・・・成功・・・か？」

あれ？なんか喋り方おかしくね？

妙に声も低いな・・・？

改め、自己確認。

銀色の髪、紫色の目はかわんないね。

身長は100・・・80!?180!!!

高くなつたZE!!!!!!

そして顔は結構いい・・・。

現代でモテそうな顔だね。この時代はまず人いねえwww

んで、紺色の半そでシャツに黒の長ズボン。

ああ、現代のカッコなの？

・・・あれ？

これ・・・・・・・・まさか・・・・・・・・

「男・・・姿・・・・・・・・？」

みょーんっ！？

うそーんっ！？

パネエー・・・・・・・・・・・・・・・・！！？

~~~~~回想終了~~~~~

ってことなんだよね・・・。

「そうそう、大変だったよ。」

どうしても女姿がいいときは耳しっぽ引っ込めて妖力抑えるんだよね。

「うん。あとキツネの姿にもなれーーーーハッ！？」

へ、変な電波を受信していたようだ・・・くっ。

あと、能力についても判明されたよ。

チートだった。マジでチートだった。

『ありとあらゆるものを操る程度の能力』だった。

あと、神様だった。てか神様になってた。

突っ込んだんじゃないよ？スルーせにや。

「ん、村の様子でも見に行ってみる？ミラさん。」

「そっやね。どうやらコメ・・・とか言つのを作りだしたっぽい。」

ミラさんとは数百年前に仲良くなった。

おっとりしてて、方までの茶髪がチャームポイント？

てゆうか、コメ？米！！！？

弥生時代！？

初めて村を発見したときは縄文だからね。うれしいよお。

「いこついいこつ！米！食べよう！！！」

「んゝ、あんまりコメに興味は・・・。」

「酒が米から作れるよ!！」

「いこか。神那ちゃん。」

あ、そうそう。ミラさんは鬼です。

「「おお・・・。」」

「きゃーっ!お酒ーーーー!」

「・・・落ち着け。ミラ、妖力も抑えて。」

「あ・・・う、うん。／＼／」

「・・・どうした?」

「なっ、なんでもないよ!?!それより早くいっ!」

「・・・?」

現在男姿です。

しかし、ミラはなんで焦ってるんだろうねえ？

分けてわかんないよ。

あと、なんでミラ顔赤いの？

熱・・・はないな。お酒に興奮してる？

まあ、いいか。

こうして、村に入っていった。

この村に入ったことで、この世界に驚くとは思いつかなかった。

(2)とりあえずいってみるか？(後書き)

すみませんっ！

短くてすみませんっ！

書き方下手ですみませんっ！

とにかくいろいろすいません・・・うう。

ま、次回もヨロシクね

(3) うそだろっ!?! まあ、うれしいにはうれしいよ。

おはようございます皆さん。

どうも綺堂神那です。

ただいま手近な村へ行つたのですが・・・

「「・・・未来都市?」」

そこに村のようなものはなく、街というか、未来都市があつた。

「文明進むのはやくね?」

この前まで縄文だつたじゃないか。

しかも弥生時代って聞いたのに?なんで未来都市なわけ?

「うーん。お酒が期待できそうやなあっ!(ニコニコ)」

「ミラ・・・よくこの状況でそんなこと言えるな?」

「えっ・・・ああ、まあ・・・突破できれば後は・・・」

「指名手配反になるな。」

「うう……。」

ちなみに、どんな状況かというと・・・

銃もった兵士に囲まれてます

「（小声）いいか・・・ここは人間と言い切るぞ。角も隠して妖力も抑えたな？」

「（小声）うん。バッチリだよ。でも、あんな筒たいしたことは無いでしょ？」

「（小声）バカ！あれは鬼でも即死だ。」

「うそっ!？」

こら!! 大声出すなよ!!

ほらぁ、兵士の目つきが「怪しいヤツ決定」ってなってるじゃないか!!

もうここは演技で通すしか・・・!

「あの・・・すみませんが、銃（危険物）を降ろしてもらえませんか

か・・・？」

「そっ・・・そうやで！そんな物騒なもんこつち向けないでや！！」

ミラアアッ！？怒鳴っちゃだめだろおおっ！？しかも何「決まった！！」みたいな顔してんのおおっ！？

「ミラ！！・・・俺たちは、その、旅人なんです。だからそんなものは・・・」

すると指揮官のような人が出てきた。

「おぬしらは・・・人であるというか？」

「「そうです（！）」」

「む・・・しかし・・・ここは八意殿やういどうの許可が無いといけないのである。悪いが帰ってもらおう。」

「そんな！！どうして！？だったら今から許可をもらってきてよ！！」

ミラ・・・お酒のために食い下がれないのは分かるけど、指揮官の胸倉掴んでゆするはやめような・・・。

てゆうか八意？

「あなたたち！！銃を降ろしなさい！その人たちを、客間に通しなさい。」

あれ？だれだろうな……。なんか幼女がいるが……。てゆうか
幼女が指揮取っちゃうの？

「つつ！？八意殿！？しかし……」

「通しなさいといったら通しなさい！その人たちに害を与えてはい
けないわ！」

「「「「はっ！」「」「」」

おお。50人はいたのに、もう10人くらいしかないな。

「だれだか知らないけどありがとうなー。ええこやなあ。（ニコニ
コ」

そういつてミラさんが幼女の頭をなでている。というかミラさん、
あなたは少女の身長ですよ……？

「うにゆうにゆ……。はっ！そ、そんな事はいいのよ。とりあえず、
こちらに来てくれるかしら？」

幼女は気持ちよさそうになでられていたがはっとなって俺達を客間
に案内する。

*

*

*

あれから少し歩いて、客間と思われる部屋に着いた。

そして幼女が扉をしめて、口を開いた。

「ふう・・・改めて自己紹介するわね。わたしは八意永琳^{やいじのえいりん}。よろしく。」

・・・・・・・・・・・・・・・・え？

「あと、ここは私以外は入れないし、盗み聞きもないから本当のことと言ってもいいのよ？鬼さんと妖怪さん。」

「つつつ！？・・・・何故わかった？」

「勘よ。」

えー！。えーりんチートだっ！

「む・・・。わかった。では本当の姿になるとしよう。」

といっても本当の姿になったら永琳が妖氣にあてられて気絶してしまつので（悪ければ死んでしまうので）本当の姿ではなく、人型に耳としっぽの姿である。

「わ・・・キツネさん？」

「む。そうだが？」

えーりん。何故君は好奇心あふれた、というかうずうずした表情なのだね？

「うあ・・・さ、さわ「頑固拒否する」りたい・・・えーっ！いいじゃない！」

「永琳ちゃん、分かるでそのキモチ。神矢はなあ、うちにもさわらせてくれへんのや。」

前に、「男姿なのに神那やったら変やで？」といわれたので、人型のときは綺堂神矢だ。

あと、しつぽや耳を触らせない理由は、そこが敏感だからだ。つまりはしつぽを握られた猫みたいになる。

あと、今までおいといたんだけど、というか置かざるを得なかったんだけど、

「ここ・・・東方世界かよ？」

「「???」なんか言った?」「」

「いや、なにも。」

そうなんだよな。永琳がいるってことはここ東方の世界なんだよなあ。

あと、永琳たちが月に行くにあたって人妖大戦争も起こるな・・・。

よしっ！きめたっ！人妖大戦争がおわったら原作キャラに会いに行こう！

一番早く会えるのは紫か諏訪子が神奈子だな。

そして3人でお茶をしてから、俺とミラさんは家に帰った。

え？何で省いたかって？何もなかったからに決まってるだろ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2383y/>

東方我銀狐

2011年11月10日16時00分発行